

- 1857 大島高任、大橋に洋式高炉を築き、12月1日、日本初の連続出鉄に成功（後に鉄の記念日となる）
- 1858 高任、橋野に洋式高炉築造（橋野鉄鉱山）
- 1874 高任の建言で、日本初の官営製鉄所が釜石に起工
- 1880 官営高炉操業開始するが、火入れ97日で中止
釜石鉄道釜石一大橋間（日本で三番目の鉄道）完成
- 1883 官営釜石製鉄所廃業
- 1884 田中長兵衛、横山久太郎来釜。釜石鉱山の一部を借用して製鉄開始
- 1885 大島式高炉竣工、火入れ。14回失敗する
- 1886 10月16日、49回目で高炉操業に成功（釜石製鉄所起業記念日となる）
- 1887 釜石鉱山田中製鉄所創立。初代所長・横山久太郎
- 1894 日本初のークス高炉の操業に成功
- 1900 第四高炉で、日本初のマンガン鉄、鏡鉄を生産
- 1901 大島高任、田中長兵衛逝去
官営八幡製鉄所操業開始。釜石から熟練工7名、技術指導派遣
- 1903 釜石が民間初の鉄鋼一貫製鉄所となる
- 1917 個人経営から、田中鉱山(株)釜石製鉄所になる
- 1924 田中鉱山(株)、三井鉱山(株)に経営譲渡
- 1934 日本製鉄(株)設立。同釜石製鉄所発足。釜山部門は三井鉱山(株)経営の釜石製鉄(株)釜石採鉄所
- 1939 日鉄鉱業(株)創設。
釜石製鉄(株)釜石採鉄所は日鉄鉱業(株)釜石製鉄所になる
- 1941 釜石製鉄所本事務所完成
- 1945 7月14日、8月9日の艦砲射撃により被災
- 1947 昭和天皇が、釜石製鉄所をご視察
- 1948 釜石製鉄所第10高炉復旧、火入れ
- 1950 会社分割で日本製鉄(株)は解散し、富士製鉄(株)釜石製鉄所となる
- 1952 日鉄鉱業(株)が西鉄床探鉱のため坑道掘削開始（後に仙人トンネルとなる）
- 1957 橋野高炉跡、国指定史跡となる。溶鉱炉百年祭開催
- 1961 釜石製鉄所で線材工場稼働
- 1964 釜石製鉄所から東海製鉄(株)への転出者第一陣出発
- 1970 八幡製鉄(株)と合併、新日本製鉄(株)釜石製鉄所となる
- 1979 日鉄鉱業(株)100%出資で釜石鉱山(株)設立
- 1980 大型工場休止。44年の歴史に幕
- 1984 米国金属協会からHL（歴史的遺産）として認定される
- 1989 釜石製鉄所第一高炉休止。鉄鋼一貫体制130年の歴史に幕
- 1993 釜石鉱山(株)、鉄鉱石終掘
- 1996 第一高炉解体
- 2000 釜石製鉄所、電力卸供給用発電事業の営業運転開始
- 2002 大島高任没後100周年事業、釜石駅前に高任像建立
- 2007 近代製鉄発祥150周年。釜石駅前に鉄のモニュメント設置
- 2012 住友金属鉱業(株)と合併し新日鐵住金(株)となる
- 2013 橋野鉄鉱山や釜石鉱山などが三陸ジオパークに認定される
- 2015 橋野鉄鉱山が構成資産となっている明治日本の産業革命遺産が世界遺産として登録される
- 2018 近代製鉄発祥160周年記念事業を市民ホールTEETOで行う
- 2019 社名が新日鐵住金(株)から日本製鉄(株)へ

鉄とともに160年のあゆみ

今から160年以上前の安政4年12月1日(西暦1858年1月15日)、盛岡藩出身の大島高任は、釜石の大橋に築いた洋式高炉で、日本で初めて鉄鉱石を原料とした鉄の連続生産に成功しました。この日が日本の近代製鉄の始まりとされ、鉄の記念日となっています。

その翌年、高任は釜石の橋野にも高炉を建設し操業に成功しました。これが橋野鉄鉱山であり、国史跡に指定されるとともに世界遺産の構成資産となっています。

明治の初めまでに、釜石地域には13基の高炉が建設され、一大工業地帯となりました。この成功を受け、明治政府は官営釜石製鉄所を建設します。イギリス製の大型高炉が導入され、明治13(1880)年に操業を開始しますが安定操業にはつながらず、わずか2年半で廃止となります。

製鉄所は実業家の田中長兵衛に払い下げられますが、製鉄事業の再開を目指す横山久太郎は、釜石出身の高橋も助や村井源兵衛とともに小型高炉を築き操業を開始します。48回の失敗を経て、明治19(1886)年10月16日、ついに連続出鉄に成功しました。

横山らは、大島高任の「小さく生んで大きく育てる」という堅実な考え方を受け継ぎ、段階的に規模を拡大しながら操業技術を確認なものにしていきました。鈴子、大橋、栗橋などに高炉が増設されるとともに官営時代の高炉を改修し、明治27(1894)年には、日本で初めてークスを用いた高炉操業に成功しました。

明治34(1901)年、福岡県に官営八幡製鉄所が建設されます。釜石からは技師や熟練工が派遣され、安定操業に貢献しました。

その後、製鉄所や鉱山は、大正、昭和、平成と経営主体や体制の変更、生産規模の拡大と縮小、また、津波や戦災にも見舞われながらも今日まで連続と操業を続けています。



官営釜石製鉄所 25t 高炉



田中製鉄所高炉

世界遺産「明治日本の産業革命遺産」と橋野鉄鉱山

日本では、1850年代から1910年までのわずか半世紀の間に、のちに基幹産業となる重工業分野において、工業立国の土台が築き上げられました。その歩みを物語る「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、橋野鉄鉱山など8地域23資産で構成され、平成27年7月に世界遺産に登録されました。

また、橋野鉄鉱山と釜石鉱山は平成25年9月に認定された三陸ジオパークのジオサイトにもなっていて、産業の近代化に大きな影響を与えた鉱物資源や遺構などを確認することができます。

釜石の鉄道の歴史

明治7(1874)年、政府は官営製鉄所を釜石に建設することを決定すると同時に、大橋採鉄場―釜石港間の運鉱・運炭用鉄道の敷設を計画。明治13(1880)年8月、京浜間、阪神間に次いで日本で三番目の鉄道として開業したのが工部省釜山寮釜石鉄道です。

そして田中製鉄所時代の馬車鉄道、その後の釜山専用鉄道、岩手軽便鉄道による仙人峠―大橋間の鉄索による運行と国有化の時代を経て、昭和19(1944)年には社線と並行して釜石―陸中大橋間に釜石東線が開通。戦争に伴い工事が中断しましたが昭和25(1950)年10月10日、国鉄釜石線的全線開通を迎えました。

鉄とともに歩んできた140年を超える鉄道の歴史が、今も市内各所に遺されています。



釜石線と交差する社線



C20型蒸気機関車

見学モデルコース

半日コース▶大橋～鈴子

釜石鉱山[10分] ^{1分} 旧釜石鉱山事務所 [30分] ^{1分} 陸中大橋駅釜石ホッパー [10分] ▶
^{20分} 釜石鉄道小川レンガ橋梁 [10分] ^{8分} 山神社扁額 [10分] ^{10分} 大島高任像・鉄のモニュメント [10分]

半日コース▶橋野・栗林

栗林銭座跡 [20分] ^{20分} 栗橋分工場跡 [20分] ^{5分} 栗橋発電所の水路橋 [3分] ^{10分} 橋野発電所 [10分] ▶
^{3分} 鷲の滝発電所 [10分] ^{5分} 橋野鉄鉱山 [60分]

1日コース

釜石鉱山[10分] ^{1分} 旧釜石鉱山事務所 [30分] ^{1分} 陸中大橋駅釜石ホッパー [10分] ▶
^{20分} 釜石鉄道小川レンガ橋梁 [10分] ^{8分} 山神社扁額 [10分] ^{10分} 大島高任像・鉄のモニュメント [10分] ▶
^{10分} 鉄の歴史館 [40分] ^{1分} C20型蒸気機関車 [10分] ^{35分} 栗橋分工場跡 [20分] ^{15分} 橋野鉄鉱山 [60分]

橋野鉄鉱山インフォメーションセンター

- 営業時間 9:30～16:30
- 休業 12/9～3/31 (冬季期間)
- 料金 無料

釜石市橋野町2-6 ☎0193-54-5250

鉄の歴史館

- 営業時間 9:00～16:30
- 休業 火曜日、12/29～1/3
- 料金 小中150円 高300円 一般500円

釜石市大平町3-12-7 ☎0193-24-2211

旧釜石鉱山事務所

- 営業時間 9:30～16:30 (入館は16:00)
- 休業 火・水曜日、12/9～3/31 (冬季期間)
- 料金 小中100円 一般300円

釜石市甲子町1-90-2 ☎0193-55-5521

かまいし鉄の歴史を辿る旅

Go! Go! Iron Tourism!

(一社)釜石観光物産協会 釜石観光総合案内所

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町22-4
TEL.0193-22-5835
FAX.0193-31-1166
E-mail.info@kamaishi-kankou.jp

釜石観光ガイド会のご案内も承ります

かまなび

スマホはコチラから▶



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

1 橋野鉄鉱山
(ユネスコ世界遺産)

1858年、大島高任の指導で盛岡藩が建設。鉄鉱石の採掘場跡、運搬路跡、鉄を生産する高炉場跡で構成され2015年に世界遺産登録。現存する洋式高炉としては日本最古。



30 釜石鉱山

1727年、阿部友之進(山田町出身)が磁鉄鉱石を発見。1857年には大島高任らが洋式高炉を築造。同年12月1日釜石産の磁鉄鉱石で連続出鉄に成功し、その日を「鉄の記念日」に制定。



28 旧釜石鉱山事務所
(国登録有形文化財)

1951年に当時の日鉄鉱業(株)が建設した総合事務所であったが、現在は市の鉱山に関連する展示室となり、鉱石や歴史資料、鉱山で使われた道具などの資料約3千点を所蔵する。

26 バトラーショベルとマインカーローダー

旧釜石鉱山事務所の脇に展示されているショベルは昭和4年製の日本最古の掘進用ローダーで、マインカーローダーはこれに次ぐ2号機と言われ、昭和9年製。

24 陸中大橋駅鉱石ホッパー

貯鉱槽から鉱石を切り出す設備。釜石鉱山の生産増強が必要となり、原料の輸送効率を上げるために貨車積込設備が造られた。1950年10月の国鉄釜石線全通後は、大橋駅との連絡コンベアも完成。



2 鷲の滝発電所

栗橋発電所とほぼ同時に、釜石電灯(株)(後に盛岡電気工業(株)と合併)が建設した水力発電所。上方の赤柴川を堰きとめパイプでおろす方式で落差を確保した。一般家庭約190世帯分を発電。

31 釜石鉱山550m坑口

当初は露天掘りだった釜石鉱山は、1906年に開坑が始まった。550m坑口は1930年に開坑。現在は、仙人秘水の製造、学術研究などに利用されている。

29 桜山運行線軌道

仙人トンネル直下の標高約500mの坑道から、鉱石を運搬するために敷かれたトロック路線。山の斜面に跡が見られ、急勾配だったことがうかがえる。

27 予察地質図第1号
「東北部地質図」

ドイツ人地質学者ナウマンが1881年から翌年の調査に基づき作成したもので、旧釜石鉱山事務所で見ることができる。1887年の邦文版と1921年の東部地質図も現存。



25 大橋の顕彰碑

近代製鉄の父・大島高任と、その長男・道太郎の業績を讃える石碑。日本の鉄の歴史が始まったこの地に、1942年12月建立された。上部の筆文字は、後に第56、57代内閣総理大臣を務めた岸信介が書いた。



23 釜石鉄道橋脚

釜石鉄道「第13の橋」といわれた橋梁。もともとは赤レンガ製だったが、現在はコンクリートで補強され、国道283号の一部となっている。拡幅前はほかにもあったが、現存するのは唯一。

3 橋野発電所

1929年、盛岡電灯(株)が栗橋発電所と鷲の滝発電所の中間地点に造った水力発電所。当時最新鋭だった自動制御運転設備を導入し、一般家庭約230世帯分を発電。

4 栗橋発電所・同水路橋

釜石製鉄所が1919~23年建設の、水車で発電機を動かし発電する水力発電所。一般家庭約300世帯分をまかなえる。延長約3kmの導水路のうち、中村地区にはアーチ橋がある。



5 栗橋分工場跡・トロック軌道跡
(市指定文化財)

1894年、田中製鉄所第7高炉として操業開始。木炭を使い年間3,000tを生産する主要工場。高前、細越鉱山からトロックで鉱石を運搬していた。1921年休止。現在は、火薬庫跡と山神社が残る。



6 栗林錢座跡 (県指定史跡)

外川目錢座(現・花巻市大迫町)の分座として、1867年に砂子田源六が建設。当初鉄を供給する予定だった橋野高炉も錢座併設となったため、1869年に高炉を築造して対処するが、直後に錢座禁止令が出され休止。

7 釜石製鉄所港棧橋

南棧橋と北棧橋があり、北は、釜石鉄道完成翌年の1881年に完成、1894年に夕張炭の受け入れを行った。南は、1918年建設。数回にわたる増強を行い全長518mに。1951年、釜石港は重要港湾に指定された。

8 一の橋・三の橋・五の橋
七の橋・八の橋

1880年に完成した「工部省釜山寮釜石鉄道」は、日本で3番目、産業専用鉄道としては日本初といわれる。本線にあった21カ所の橋は「一の橋【写真】」「二の橋」のように番号で呼ばれた。現存するのは一、三、五、七、八で、機関車の全重量18.75t、鉱石車40tをけん引し、時速16kmで走るのに十分な強度で敷設された。



9 鉄の歴史館の所蔵物・製鉄関連資料

製鉄の歴史や、大島高任をはじめ先人の業績を模型や資料で展示。橋野鉄鉱山の三番高炉を原寸大で再現し、映像とともに鉄づくりを体感できるシアターが必見。

10 海図第1号
「陸中国釜石港之図」

1872年、日本人の手で初めて測量から銅板印刷までなされたのがこの図で、陸地は伊能忠敬の測量図を利用したとも言われる。釜石大観音でレプリカを見ることができる。



11 C20型蒸気機関車

工部省釜石鉄道は開業3年で廃止され、その後馬車鉄道から蒸気機関車へと替わるが、C20型は釜石製鉄所専用線(社線)で昭和8年から40年3月まで使われた国産のミニ蒸気機関車。

13 大島高任像・鉄のモニュメント

近代製鉄の父・大島高任の銅像と、近代製鉄発祥150周年を記念した鉄のモニュメント。モニュメントの灯は釜石製鉄所の高炉の灯から分灯され、市民の灯になっている。



12 尾崎神社の鑄鉄製宝剣と扁額

尾崎神社の宝剣は、日本初の高炉法で出鉄した大橋鉄鉱山で1859年から翌年に、扁額は橋野鉄鉱山で1865年に製作されたものとされ、画期的成功を証明する歴史遺産である。

14 高橋亦助翁彰徳碑

市街地の高台にある業師公園。その広場の奥に高炉の形をした、釜石の出身で高炉創業主任として鉄づくりを担った高橋亦助の功労者、高橋亦助の彰徳碑がある。

15 インクライン跡

1935年9月、製鉄所裏山に鉱滓を引き上げる作業が始まった。急斜面にインクライン(勾配鉄道)を架設し、鉱滓鍋を使って上げ、西側斜面に流した。灼熱のノロが夜空を染めた。

16 釜石製鉄所本事務所

1941年完成。玄関やそれに続く廊下の天井の造りに、当時の建築様式の面影が残る。事務所前には、製鉄所の創業者・田中長兵衛、初代所長・横山久太郎の胸像が建立されている。

17 釜石製鉄所中島橋

1937年ごろ、構造や施工法に当時の新技術を導入して造った、鉄道・車道兼用の橋。鈴子地区と中妻地区を結び、小佐野・松倉地区埋め立ての鉱滓や、鑄物溶銑(溶けた鉄)の運搬に利用された。



21 砂子渡錢座跡

大橋高炉が藩営となった後、貫洞瀬左衛門の出資で1865年に砂子渡に高炉が建設され、藩が経営する外川目錢座に鉄鉄を供給したのが前身。その後、1868年に錢座を併設したが、翌年休止となった。

20 洞泉鉱山

1897年に創業し、1958年まで続いた石灰石山。採掘された石灰石は鉄索(空中ケーブル)で洞泉駅に運ばれ、大橋からの鉄鉱石運搬車に石灰石運搬車を連結して、製鉄所の置場に持ち込まれた。

22 釜石鉄道小川レンガ橋梁
(市指定文化財)

小川支線は、木炭輸送のために1881年敷設された。軌道は1883年に撤去されたが、2つのアーチ橋が現在も市道の一部として残っている。現存する鉄道レンガ構造物では国内最古級。



18 釜石製鉄所山神社扁額
(重要科学技術史資料)

製鉄所の守護神で、大橋高炉から始まった山神社。大島居にかけられた「山神額」は、1894年、25t高炉が再開され、コークスによる鉄づくりが始まったときの鉄鉄(初湯)で鑄造したもの。



19 釜石製鉄所楽山荘

製鉄所の初代所長・横山久太郎の別邸。釜石製鉄所の迎賓館的存在で、皇族の宿泊にも使われた。1531年に創建した観音寺のあった場所に建てられたが火災により焼失。1950年に再建された和洋折衷の建物。

